

# ナッジを活用した啓発看板の介入効果及び手法に関する考察

—タクシー駐停車マナー改善施策を事例として—

○三原康弘 (Yasuhiro Mihara)

**Keywords** : ナッジ、啓発看板、駐停車違反、タクシーマナー

## 1 目的

本研究は、京都市中心部の四条河原町交差点におけるタクシーの違法駐停車問題を解決するための、ナッジ（行動科学的介入）を活用した対策の効果及び手法を検討することを目的としている。特に、タクシー乗務員と利用者双方に対する自発的な行動変容を促す手法にスポットを当てた。京都市では、四条通の歩道拡幅事業に伴い、道路交通の円滑化を進めてきたが、特に交通量の多い四条河原町交差点付近では、タクシーによる違法な客待ちが頻繁に発生しており、これが渋滞やバスの運行に影響を与え、交通の安全性確保に向けた大きな課題となっていた。タクシー乗務員は、乗客からの要望に応じて違法駐停車を行うことが多く、また、利用者もルール違反を認識せずとその場所で乗車することが多かった。このため、従来の啓発活動や警察による散発的な指導では、違法駐停車の減少には限界があった。本研究では、ナッジを用いた新たな介入方法の効果を検証し、その手法の継続性や発展性、倫理面の配慮について考察した。

## 2 方法

京都市は、民間のコンサルティングファームと連携し、四条河原町交差点に目立つ看板を設置する実証実験を行った。この看板は、違法駐停車の抑止を狙い、タクシー乗務員には他者の目を意識させ、利用者には違法駐車タクシーの利用を避けさせることを目的としたもので、タクシーが駐停車する時間を設置前後で比較分析するとともに、その手法の発展性等について考察した。

## 3 結果

看板設置後、違法駐停車は約 90%減少し、警察への苦情やバスの運行への影響も改善された。また、設置から半年後には SNS で話題となり、マスメディアでも報道されるなどの反響があった。

## 4 結論

ナッジを活用した看板は、目立つデザインと強調されたメッセージによって、タクシー乗務員と利用者の行動に顕著な変化をもたらした。しかし、効果の持続には環境要因や行政と市民の信頼関係が重要であり、この施策の継続性及び発展性や倫理面への配慮について検討が必要である。

### 【主要参考文献】

- ・京都市情報館「歩いて楽しいまちなか戦略推進会議」Web ページ  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000249754.html>
- ・キャス・サンスティーン, 2020, 『ナッジで、人を動かす—行動経済学の時代に政策はどうあるべきか』 NTT 出版